

令和7年度 公共事業 事後評価

令和元年度完了

中山間総合整備事業

小谷地区

北安曇郡小谷村

長野県 農政部



事業の概要

事業計画時の課題・背景及び事業経緯

- ◆ 本地区は、農業従事者の高齢化に伴い、生産基盤施設における維持管理の軽減、営農労力の省力化のための設備整備や、新たな定住者を確保するための身近な環境整備が求められていた。
- ◆ これらの状況を解消し、地域の活性化を図るため、「今ある資源こそ小谷の魅力だ！小谷ならではの豊かな農村を作ろう」をキャッチフレーズに平成22年度から事業着手した。

【事業実施前の状況】



雪解けにより巨石が崩落し水路を破損



河床の変動の度に取水位置を上流に移動して水を取っている



未舗装の農道



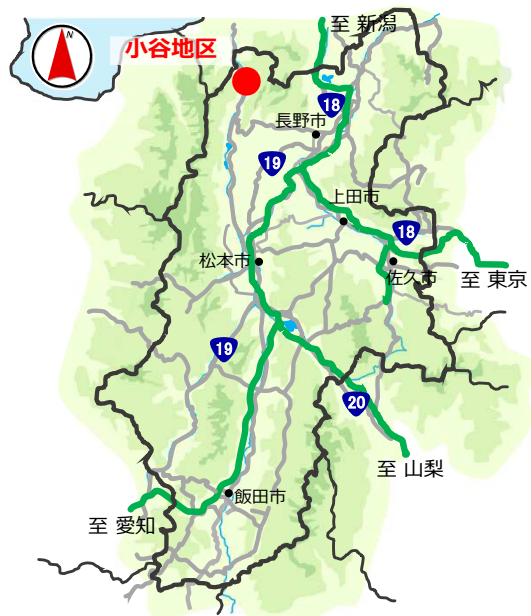
ほ場内の土型水路

事業目的

- ・ 農業用排水路整備、ほ場整備等を行い、施設の維持管理労力の軽減を図る。
- ・ 情報基盤整備、集落道整備等を行い、地域住民に対し安心・安全を提供する。

事業の概要

【位置図】



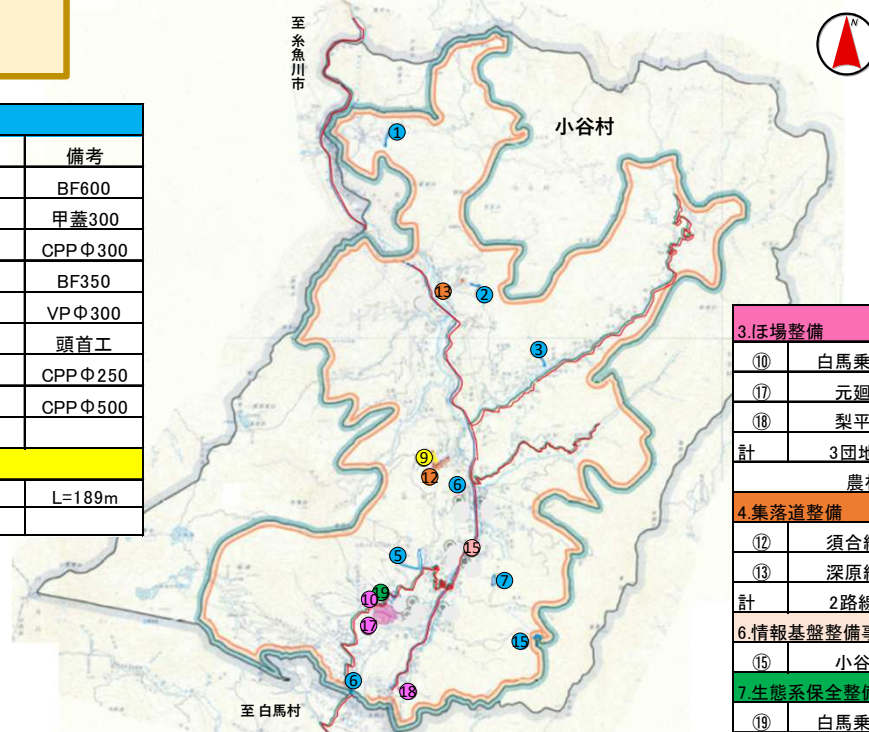
【平面図】

1. 農業用排水施設整備

番号	工区名	受益面積	備考
①	大網	2.6ha	BF600
②	深原	1.1ha	甲蓋300
③	中谷西	1.8ha	CPPΦ300
④	下里瀬	3.0ha	BF350
⑤	土倉	19.8ha	VPΦ300
⑥	松沢	2.4ha	頭首工
⑦	伊折上	10.6ha	CPPΦ250
⑯	黒川	10.0ha	CPPΦ500
計	7路線1箇所	51.3ha	

2. 農道整備

⑨	池原	2.6ha	L=189m
計	1路線	2.6ha	



3. ほ場整備

⑩	白馬乗鞍	18.7ha	
⑪	元廻	12.7ha	
⑫	梨平	1.6ha	
計	3団地	33.0ha	

農村生活環境基盤整備事業

4. 集落道整備

⑬	須合線	970m	
⑭	深原線	125m	
計	2路線	1095m	

6. 情報基盤整備事業

⑮	小谷	1327戸	情報無線施設
---	----	-------	--------

7. 生態系保全整備

⑰	白馬乗鞍	195m	ホタル水路
---	------	------	-------

【全体計画】

事業内容：農業用排水施設整備 7 路線 1 箇所 L=2,182m

農道整備 1 路線 L= 189m

ほ場整備 3 箇所 A=33.0ha

集落道整備 2 路線 L=1095m

情報基盤整備 村内一円 一式

生態系保全整備 1 箇所 一式

事業期間：平成22年度～令和元年度

全体事業費：18億1550万円

【事業完了後の状況】



用排水施設整備
松沢工区



集落道整備
須合工区



情報基盤整備
小谷工区

事業概要の変更経緯

事業概要の変更経緯

	当初計画 (平成21年度新規評価時)		最終実績 (令和元年度完了時)
事業期間	平成22年度～平成27年度		平成22年度～令和元年度
総事業費	14億3500万円		18億1550万円
費用対効果	B/C = 1.23		B/C = 1.23
事業概要	農業用排水施設整備 8路線 L=2,885m 農道整備 1路線 L= 200m ほ場整備 2箇所 A=32.3ha 集落道整備 2路線 L=784m 営農飲雑用水 1箇所 情報基盤整備 村内一円 一式		農業用排水施設整備 7路線 1箇所 L=2,182m 農道整備 1路線 L= 189m ほ場整備 3箇所 A=33.0ha 集落道整備 2路線 L=1095m 情報基盤整備 村内一円 一式 生態系保全整備 1箇所 一式

変更理由 (総事業費の増、事業期間の延長)

- ◆ 当初計画時は、2箇所ではほ場整備を行うこととしていたが、ほ場整備工事が進むにつれ、隣接地区においてほ場整備の機運が高まり、対策工事を追加したため事業費が増となった。
- ◆ 上記ほ場整備 1箇所の増工により、事業期間が4年延長となった。

① 事業効果の発現状況

ほ場整備 白馬乗鞍工区・元廻工区



【直接効果】

○ほ場整備や農道整備により、労力の削減や機械化の推進と営農作業の効率化が図られ、農業の生産性が向上した。

平均区画 1320 m² → 2833 m²

○ほ場整備により、14,900m²の遊休農地が解消され、地域農業に大きく貢献した。

工区名	遊休農地解消面積
白馬乗鞍・元廻	12,500m ²
梨平	2,400m ²

○山腹水路を暗渠化することで、土砂による閉塞の心配がなくなるほか、定期的な泥上げなども不要となり、維持管理費の節減が図られた。

○情報基盤整備により、安全安心な農村の生活環境の確保が図られた。

【間接効果】

○生態系保全施設の整備により、ホタルの生息環境保全が図られた。ホタル祭りや観賞ガイドツアーの開催により、都市との交流人口増加が図られた。

② 事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化

【自然環境】

○生態系保全施設 白馬乗鞍工区

ほ場整備にあたり、計画区域内にホタルの生息する水路があったため、一部地域をほ場整備区域から除外し、水路や遊歩道を整備してホタルの生育環境を創造した。

本事業では、住民・観光客が安全で気軽にホタルと接する事が出来る歩道と休憩場所を設置した。

また、施設整備にあたっては、造成は区画整理工事と合わせ実施したが、水路や遊歩道は、直営施工により地域住民（白馬乗鞍ホタルの会）が生息状況を配慮した上で行った。



生態系保全施設（白馬乗鞍高原ホタルの郷）

【生活環境】

○情報基盤施設（全村）の整備

既存の通信設備は、電柱などに拡声器が設置され、有線式であることから、災害時に分断される可能性があった。

これをデジタル化・無線化することでこれらの心配がなくなったほか、屋外放送施設数を39箇所から49箇所に増やし、屋内の無線装置も21箇所から40箇所に増やすなど、緊急時の情報伝達が速やかに、安定的に実施可能となった。



（施設整備後）ホタルの乱舞

③ 施設の維持管理状況

- 各施設は、村に財産譲与され、施設を管理する地域住民において維持管理が適切に行われている。
- 維持管理は、定期的（3回／年）に草刈り等を実施。



（土倉工区）暗渠水路の保守管理



（白馬乗鞍工区）ほ場周辺の草刈り



（深原工区）水路周辺の草刈り

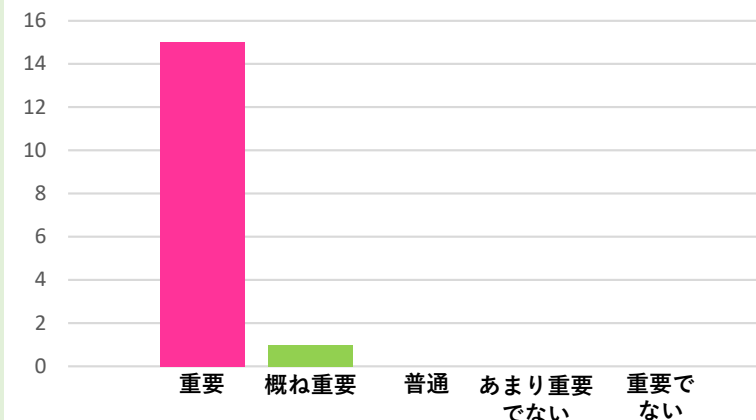
④ 地域住民等の評価

【施設管理者の評価】

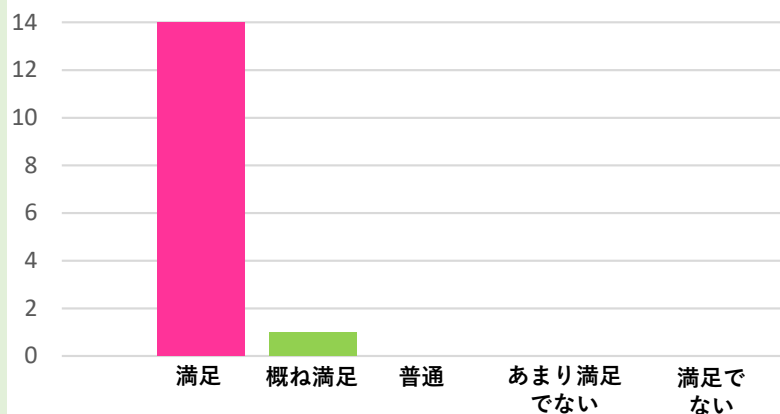
- ◆（用排水施設整備）安定して定量の用水が可能となった。
- ◆（用排水施設整備）取水施設の閉塞等がなくなり、管理が容易になった。
- ◆（ほ場整備）大型農機による作業が可能となり、農作業の効率化が図れた。
- ◆（情報基盤整備）アナログ式からデジタル式への移行により、安定的な通信が可能となった。

受益者（農家）の代表に対する アンケート調査結果

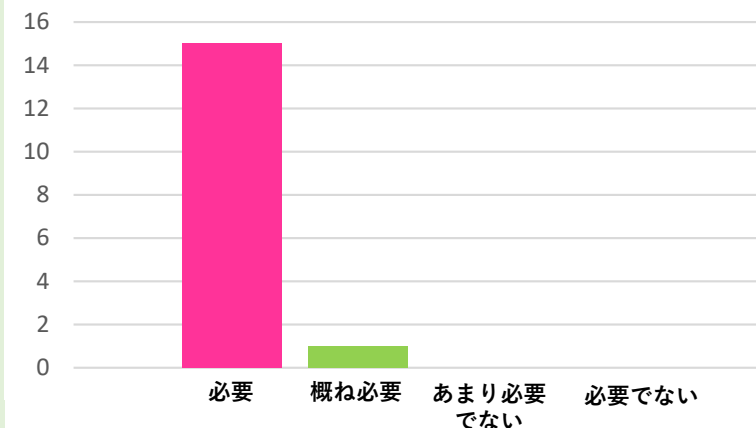
【行われた事業は地域にとって重要か】



【事業の実施結果に満足か】



【今後も同様の事業が必要か】



事後評価結果

総合評価

評価項目	評価	評点	評価指標
① 事業効果の発現状況（直接的効果、間接的効果）	B	55点	A：目的を超えた達成【70点】 B：目的を達成【55点】 C：目的を概ね達成【40点】
② 事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	A	10点	A：計画時よりも環境がよくなった【10点】 B：大きな影響なし【5点】 C：影響が大きい【0点】
③ 施設の維持管理状況	B	5点	A：地域の人たちも参加し適切に実施【10点】 B：施設管理者が適切に実施【5点】 C：やや不十分【0点】 D：不適切【0点】
④ 地域住民等の評価	A	10点	A：評価が高い【10点】 B：中程度の評価【5点】 C：評価が低い【0点】
総合評価	A	80点	A：75点以上 C：49点以下 B：74点～50点

改善措置の必要性

特になし

今後の取組及び同種事業への活用と課題

・水路の暗渠化などで施設の維持管理が容易になったとの意見から評価が高いが、今後の整備にあたっても引き続き施設管理者の労力軽減に向けた工夫が必要と思われる。

事後評価結果

【農政部公共事業評価委員会の意見】

山腹水路が地中化され、用水施設の維持管理労力が大きく軽減したほか、情報基盤施設（防災無線）の整備などにより、生活環境基盤も改善されたことで、地域住民の評価も高いため、総合評価 A が妥当と判断する。

【長野県公共事業評価委員会の意見】

農政部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。

県の評価案	A	評価監視委員会意見	妥当	評価の決定	A
-------	---	-----------	----	-------	---